

別表第1の2 畑の比準表

- 各筆の畑の比準割合は、次の算式によつて求めるものとする。この場合において、各筆の畑の各項目の数値は、該当する「標準畑の状況」欄に対応する「比準畑の状況」欄の数値によるものとする。
〔算式〕 比準割合＝（1.00＋日照の状況＋農地の傾斜＋保水・排水の良否）×（1.00＋面積＋耕うんの難易）×災害
- 比準割合は、一枚の畑（耕作の単位となつていて一枚の畑をいう。以下同様とする。）ごとに、この比準表を適用して求めるものとする。この場合において、一筆の畑を二枚以上に区分して利用しているときは、原則として、一枚ごとに求めた比準割合をそれぞれの面積によつて加重平均して、当該筆の畑の比準割合を求めるものとするが、中庸と認められる一枚の畑が得られる場合には、当該一枚の畑について求めた比準割合によることができるものとする。

項目	標準畑の状況	比準畑の状況	よく日があたる	多少日かげになる	かなり日かげになる	はなはだしく日かげになる	判定基準
日照の状況	よく日があたる		0	－ 0.04	－ 0.08	－ 0.12	日照の状況は、畑の中央部において、山、樹木、建物等のひ蔭物によつて太陽光線が遮へいされる状況により、おおむね、次の基準によつて判定するものとする。 よく日があたる・・・夏期における日照時間がおおむね9時間以上するとき 多少日かげになる・・・夏期における日照時間がおおむね5時間以上9時間未満のとき かなり日かげになる・・・夏期における日照時間がおおむね3時間以上5時間未満のとき はなはだしく日かげになる・・・夏期における日照時間がおおむね3時間未満のとき
	多少日かげになる		＋ 0.04	0	－ 0.04	－ 0.08	
	かなり日かげになる		＋ 0.09	＋ 0.04	0	－ 0.04	
	はなはだしく日かげになる		＋ 0.14	＋ 0.09	＋ 0.05	0	
項目	標準畑の状況	比準畑の状況	ない	緩やかな傾斜	急な傾斜	はなはだしく急な傾斜	農地の傾斜は、農地自体の傾斜の程度により判定するものとする。この場合において、傾斜角度が5度程度までは傾斜がないものとし、はなはだしく急な傾斜とは、傾斜角度が20度程度をこえる場合をいうものとする。
農地の傾斜	ない		0	－ 0.05	－ 0.09	－ 0.14	
	緩やかな傾斜		＋ 0.05	0	－ 0.04	－ 0.09	
	急な傾斜		＋ 0.10	＋ 0.04	0	－ 0.05	
	はなはだしく急な傾斜		＋ 0.16	＋ 0.10	＋ 0.06	0	
項目	標準畑の状況	比準畑の状況	極めて良好	普通	やや不良	極めて不良	保水・排水の良否は、乾湿の状況、作付可能な作物の種類の多寡を考慮して判定するものとする。
保水・排水の良否	極めて良好		0	－ 0.05	－ 0.11	－ 0.18	
	普通		＋ 0.05	0	－ 0.07	－ 0.14	
	やや不良		＋ 0.13	＋ 0.08	0	－ 0.08	
	極めて不良		＋ 0.22	＋ 0.16	＋ 0.08	0	
項目	標準畑の状況	比準畑の状況	694㎡以上	297㎡以上 694㎡未満	99㎡以上 297㎡未満	99㎡未満	
面積	694㎡以上		0	－ 0.03	－ 0.10	－ 0.20	
	297㎡以上 694㎡未満		＋ 0.03	0	－ 0.07	－ 0.18	
	99㎡以上 297㎡未満		＋ 0.11	＋ 0.08	0	－ 0.11	
	99㎡未満		＋ 0.25	＋ 0.21	＋ 0.13	0	
項目	標準畑の状況	比準畑の状況	機械耕、畜力耕が容易にできる	機械耕、畜力耕ができる	人力耕であればできる	人力耕によつてようやくできる	耕うんの難易は、農道の状態、畑の形状、障害物の有無、土性の状態等を総合的に考慮して判定するものとする。
耕うんの難易	機械耕、畜力耕が容易にできる		0	－ 0.07	－ 0.16	－ 0.22	
	機械耕、畜力耕ができる		＋ 0.07	0	－ 0.10	－ 0.17	
	人力耕であればできる		＋ 0.19	＋ 0.11	0	－ 0.08	
	人力耕によつてようやくできる		＋ 0.29	＋ 0.20	＋ 0.08	0	
項目	標準畑の状況	比準畑の状況	ない	ややある	相当にある	はなはだしい	災害の程度は、おおむね、過去5年間の災害の回数、災害による減収の状況等を考慮して判定するものとする。
災害	ない		1.00	0.90	0.80	0.75	
	ややある		1.11	1.00	0.89	0.83	
	相当にある		1.25	1.13	1.00	0.94	
	はなはだしい		1.33	1.20	1.07	1.00	